

競 技 注 意 事 項

1 競技は、すべて2018年度（公財）日本陸上競技連盟規則、および本大会競技注意事項、ならびに監督会における申し合わせ事項により実施する。

2 選手の招集の方法について

(1) 招集開始時刻と完了時刻は次の通りとする。（招集所は室内練習場内に設ける）

	招集開始	招集完了
トラック競技	30分前	15分前
フィールド競技	60分前	45分前
棒高跳	75分前	60分前

(2) 本大会における「招集開始時刻」とは、競技者係が最終点呼を開始する時刻である。また、「招集完了時刻」とは、競技者が、競技者係の誘導に従い、招集所から競技を行う場所へ移動を開始する時刻である。

(3) 最終点呼後は各校の控え場所などには戻れないので、競技に必要なものはすべて準備してくる。

(4) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとみなす。

(5) 四種競技については、4種目とも(1)の通りとする。

(6) 棄権する場合は、招集開始時刻までに所属する学校の監督または引率者が、棄権届を競技者係（招集所）に提出する。

(7) 招集所には選手以外は入場できない。（いわゆる「付き添い」「バディ」の禁止）

(8) 個人種目でリレーの招集に間に合わない場合は、事前に招集所に多種目届を出すこと。また、リレーメンバーからも競技者係にその旨を口頭で伝えること。

3 競技場への入退場について

(1) すべて競技役員（審判員）の誘導に従うこと。

(2) 選手、競技役員、指定の帽子をかぶった補助員、本部の許可を得て特定のビブスを着用した報道関係者以外は競技場内への立ち入りを禁止する。

(3) ゴールした選手は、第1ゲートから退場し各校の控えに戻る。本部前は絶対に通過しない。

(4) リレーに出場した選手は、競技終了後、競技役員（審判員）の指示に従って退場する。

4 ナンバーカードについて

(1) ナンバーカードは、数字が明瞭なものを胸と背につけること。（安全ピン可）

ただし、走高跳（四種競技を含む）、棒高跳、走幅跳に出場する選手はどちらか一方でよい。

(2) トラック競技に出場する競技者は、写真判定用の腰ナンバーカードをパンツの右側につけること。ただし、中長距離種目は、左右に腰ナンバーをつける。腰ナンバーカードは招集所で配布する。（長距離種目は胸ナンバーもつける。）

5 競技用具について

(1) 使用する競技用具は、主催者が準備したものを使用する。また、競技場内に個人の競技用具を持ち込むことを禁止する。ただし、棒高跳のポールは個人で準備するものとする。

(2) 携帯電話やトランシーバーなどの競技場内への持ち込みを禁止する。

6 予選通過について

(1) 準決勝への進出は、予選4組3着+4、準決勝から決勝への進出は2組3着+2とする。

(2) リレーは予選各組1着+αを決勝進出とする。

(3) 男女の1500m、男子3000mについては、予選2組6着+3を決勝進出とし、15名で決勝を行う。

(4) タイムにより次のラウンドに進む競技者の決定について

① 100m・100mH・110mH

+αの最下位で同記録の競技者が出た場合は、写真判定の1000分の1秒単位の比較で順位をつける。それでも同記録の場合は9名でレースを行うものとする。

② 200m・400m・800m

①に準じるが、それでも同記録の場合は抽選を行い決定する。ただし、800mについては、ルール上1レーンに2人でスタートさせることもある。

③ 1500m、3000m

予選が違う組で同記録の競技者は、いずれも次のラウンドに進むことができる。

7 競技について

(1) スタートはイングリッシュ・コマンドにて行う。

(2) 800mのレーンは、スタートから第2コーナーの出口までをセパレートで行い、出口を通過した地点（緑色のダッシュラインで示す）からオープンとする。

(3) 100m～400m、およびハードル競技でフィニッシュラインに達した競技者は、レーンに沿って走り抜けること。（リレーの第4走者も含む）

(4) 四種競技の最終種目（男子400m、女子200m）は、3種目終了時点で番組編成を行うので、掲示板で自分のレーンを確認すること。

(5) フィールド競技は、コール後制限時間内に試技を開始しなければならない。

残っている 競技者数	単独種目			混成種目		
	走高跳	棒高跳	その他	走高跳	棒高跳	その他
4人以上	30秒	1分	30秒	30秒	1分	30秒
2～3人	1分30秒	2分	1分	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—	2分	3分	2分
連続試技	2分	3分	2分	2分	3分	2分

(6) スパイクの長さは9mm以内とする。(走高跳のみ12mm以内)

(7) 走高跳のバーの上げ方は次の通りとする。

	練習	1	2	3	4	5	6	7	以後3cmずつ 上げる
男子	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	1m73	1m76	1m79	
女子	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m48	1m51	1m54	

(8) 棒高跳のバーの上げ方は次の通りとする。

	練習	1	2	3	4	5	6	以後10cmずつ上げる
男子	2m50	2m60	2m70	2m80	2m90	3m00	3m10	

(9) 四種競技の走高跳のバーの上げ方は次の通りとする。

	練習	1	2	3	4	5	以後3cmずつ上げる
男子	1m35	1m40	1m45	1m50	1m40	1m45	
女子	1m15	1m20	1m25	1m30	1m33	1m36	

(10) リレーのオーダー用紙は、競技者係(招集所)から受け取り、予選・決勝とも招集完了時刻1時間前までに、監督が自筆で署名の上、競技者係(招集所)に2部提出する。

(11) リレー競技に使用するマークは、各学校で準備するものとする。ただし、競技終了後は責任を持って撤収すること。なお、マークは各走者とも1箇所のみとする。

(12) リレーメンバーのユニフォームは、原則として4人とも同一のものとする。

(13) 東北大会への参加資格は各種目4位までのため、走高跳と棒高跳において4位が複数名に及んだときには、出場者決定の試技を行う。

8 学校対抗について

(1) 競技は学校対抗とし、各種目1位8点、2位7点・・・8位1点とする。

(2) 総合1位の学校が複数校出た場合は、上位入賞者の多い学校を優勝とする。ただし、総合2位以下については同順位とする。

9 表彰について

(1) 表彰は各種目8位までとし、賞状を授与する。3位までに入賞した選手にはメダルを授与する。

(2) 男女の四種競技の優勝者には持ち回りの優勝カップを授与する。

(3) 表彰は競技終了後ただちに行うので、入賞者は所定の位置で待機すること。

(4) 学校対抗の表彰は男子総合・女子総合・男女総合のいずれも6位までとし、男子・女子総合優勝校には持ち回りの優勝旗を、男女総合優勝校には優勝盾を授与する。

10 練習および安全確保について

(1) サブグラウンドまたは室内練習場を利用する。なお、練習の際には必ず競技役員(ウォーミングアップ係)の指示に従うこと。

(2) 混雑を避けるため、選手以外の付き添いは禁止する。

(3) 大会期間中、朝7時から8時まで本競技場を開放する。ただし、本競技場の投てきピットではタオル等の柔らかい物に限ります。それ以外はサブグラウンドで行ってください。

11 その他

(1) フライングについてはルール上、不正スタートを行った場合は「一発フライング失格」となる。ただし、不正スタート以外でしっかり静止しない場合は、従来のルールで行う。(日本陸上競技連盟規則162条を適応しない。)

(2) アクセサリー類(指輪・ネックレス)については禁止。医療目的のものについては、原則テーピング類のみとする。

(3) 本大会は、招集所には学校指定ジャージ(Tシャツ・ハーフパンツ)で入る。